

日曜日はやって来る

教団代表 藤本 満



「するとイエスが彼女たちに出会って、『おはよう』と言われた。」（マタイ二八・九）

アメリカの黒人教会の牧師であれば、必ず熟練しなければならぬ説教があります。タイトルは、「サンデー・イズ・カミング」（日曜日はやって来る）です。この題の説教がまともにできたら、一人前の牧師になったと本人が実感するほど、重要な説教題です。

私たちの人生には木曜日も金曜日もあります。イエスが捕らえられた夜、弟子たちは兵士に取り囲まれました。パチパチと燃えたいまつ音、剣が抜かれる鋭い金属音、ユダの裏切り、逃げまどう弟子たち。

そして、イエスを裁判にかけるために、大祭司の公邸に騒がしく人が出入りし、金曜日朝には、「十字架につける」と怒号の叫びが広場にこだましました。いばらの冠を頭にねじ込まれ、背中を血に染めた主が、十字架を背負い、引き回され、人々の罵声が町中にひびきました。ゴルゴダの丘から響いてくる、不気味なくぎを打つ音、はりつけになった者の悲鳴、ざわめきやがて、天が暗くなり、イエスが息絶えます。

土曜日だれも口を開きません。ただ、沈黙の中に絶望の浸ります。

しかし、日曜日はやって来ます。週の初めの日、墓を見に来たマリヤたちを待っていたのは、いなすまのように輝く御使い、空っぽの墓、イエスの復活でした。私たちの人生には、必ず十字架の試練があります。

裏切られ、捨てられ、見放され、孤独の中で静かに沈黙するような日々が。

アメリカから連れてこられた人々は家族を失い、大規模農場で、綿花を摘み取り、たばこの葉っぱを摘むだけの奴隷人生でした。奴隷制度が廃止になっても、どんなに戦っても勝てない差別。どんなに努力しても報われない人生。それは彼らにしても、私たちにしても、苦しみの金曜日、そしてそれに続く、長い敗北の土曜日です。

しかし、その説教は迫力を増してきます。「日曜日はやって来る。必ずやって来る。」その日がいつなのか？ その希望に輝く日を期待しつつ、毎週、主に出会う日曜日が必ずやって来ます。ですから、黒人教会の人々はひとときわきれいなドレスで着飾って礼拝にいきます。

マリヤたちに出会われたイエスがおっしゃったのは、「おはよう」でした。もともとは「喜ばなさい」という言葉を用いた挨拶の言葉です。

毎週の日曜日、復活の主が私たちと出会ってくださり、失望でうつむいて、日常で疲れている私たちに「喜ばなさい」と声をかけてくださいます。わたしはあなたのために十字架にかかっただけではない、わたしはあなたのために復活した、とおっしゃいます。復活の主は、週の初めの日に、私たちに会って、私たちに輝かせてくださる——この期待にあふれる教会、それが私たちの教会です。

目次

- 日曜日はやって来る……藤本 満……1
- 組織改革アジェンダ、選挙管理委員会から……2
- 山口教会献堂式、女性部運営委員会報告……3
- 海外トピックス、国内局コラム、北関東教区……4
- 呉教会献堂式、青年部運営委員会報告……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

第72次年会を越えて

2018年総会に向けて 組織改革へのアジェンダ 改革を実効あるものに

国内教会局長 内山 勝

先の第72次年会の議事会で、組織改革案の説明と質疑応答がなされました。提案時期が年会開催前1か月というところで、時間不足であったことをお詫びいたします。

今回の改革案の理念をひとことでもとめるなら、「前回の改革を具体的に前進させ、牧師と信徒の共働を形にする。それを教団組織に限定せず、各地域教会にまで浸透させる。」ということなのです。

年会では、限られた時間でしたが、それでも時間延長をお許しいただいて、以下3つの議決を見ることができました。

- 1 信徒教団運営委員に議決権を付与する。
- 2 信徒教団運営委員は、信徒代議員同士の互選ではなく、暫定的に、人事委員会の推薦を受けて代表が委嘱する。
- 3 信徒も厚生委員長になることができる(信徒が財務委員長になる件は賛成と共に反対・保留も多

数あり承認に至りませんでした)。これらの議決を踏まえて、明年の第21次総会に向けて合意点を探り、条例改正案をまとめ上げて行く所存です。また教団運営委員会が開催されていませので、現時点では、教務会の意向をお伝えするにとどめ、教団運営委員会後に、正式な報告を致します。

このたびの組織改革案は、前回の改革を後退させるものではありませんし、大きく舵を切るような改革でもありません。前回の改革で明示された合議的監督制を、さらに実効的なものとするために形を整えるための改革です。

前回の改革で、信徒も教団運営委員会に加わるようになりました。その時点で、近い将来、議決権を付与することが想定されています。なので、今回それを実行しようとしています。責任もなく議決権だけが与えられても意味がありませんので、様々な分野で責任を負っていただにふさわしい器がいれば、荷を担っていただくことが、牧師と信徒の共働を前進させることになると期待しています。牧師と信徒が互いを敬い信頼して、荷を担い合っていく体制こそ、聖書が教える健全な教会の姿だと信じます。それを具体化するのが今回の改革案の大切な柱です。単に、牧師が不足しているから信徒を活用しようという急場しのぎの対策ではありません。

振り返りますと、YS、全国壮年部大会、70周年記念全国大会など、すでに信徒の皆さんが、主体的に企画運営に参加して共働するという実績を積み重ねてきた群れですから、さらにステップアップするのは無謀なことではなく、既に機が熟していると言えるのではないのでしょうか。そうした観点から、今回の改革案の審議には、牧師だけでなく信徒代議員にも加わっていただきたいと願っています。

現在、春の教区会を越えて、質問や意見をお待ちしています。教団運営委員会の専門委員会として、昨年から立ち上げられた組織改革タスクフォース・チームから、Q&A方式で、質問に回答するだけでなく、さらに丁寧な説明を一つひとつ積み重ねて行きたいと思っています。

併行して教団運営委員会で、寄せられた様々な意見をもとに審議して、秋頃をメドに最終的な提案をまとめたく願っています。それに基づいて、条例審議委員会によって条例改正案が整えられていくこととなります。

そこでお願ひですが、全国の牧師・信徒の皆さま、何よりも祈ってください。私たちが、真に主に喜ばれる群れとして前進できるように。変えてはならないことを保持できる平静さと、変えるべきことを変える勇氣と、その両者を見分ける知恵が与えられるように。改革審議のプロセスに関わることによって、お互いの教会にさらなる前進が与えられるように。

この決意を受けて、選挙管理委員会は選挙実務を進めます。信徒代議員の選出
信仰生活10年以上の第一種会員で、1945(昭和20)年4月2日以降に誕生された方が有資格者です。明年3月の総会に出席可能

選挙公報

選挙管理委員会から……

明年の教団総会へ これからの選挙日程

委員長 松井元始

去る3月の第72次年会で、明年の第21次教団総会の日程と総会代議員の定数が決まりました。

【日程・会場】
2018年3月3日(土) OCC

【代議員定数】
▼選出される信徒代議員 24名

【内訳】
東関東・東京・近畿教区各3名、
神奈川・静岡・北九州教区各2名、
その他の9教区は各1名

▼選出される教職代議員 24名

【内訳】
・ 地方区から12名
・ 国内各ブロック・宣教地を単位とする6選挙区で構成
・ 全国区から12名

▼職員上の総会代議員 14名
現教団運営委員会構成メンバー
(教職12名、信徒2名)

これらの決定を受けて、選挙管理委員会は選挙実務を進めます。

●信徒代議員の選出
信仰生活10年以上の第一種会員で、1945(昭和20)年4月2日以降に誕生された方が有資格者です。明年3月の総会に出席可能

●教職代議員の選出
まず予備選挙で、年齢・再選制限対象者を除いた教職代議員の中から得票上位3名を代表候補者に選びます。選挙権は教職代議員選挙に準じ、郵送による投票を11月頃に行います。

選ばれた代表候補者3名は教報紙上にて公表・紹介します。

本選挙は、明年総会時に全代議員による投票で行い、過半数獲得者が次期教団代表となります。

であることも大切な点です。各教区でよく協議して選出いただくようお願いいたします。また、年会で説明されたように、明年総会で選ばれる信徒教団運営委員は、従来の信徒代議員による互選ではなく、今後条例改正の手続きを経た上で、教団代表の任命によって選出される方向であることをご理解いただきたいと思います。

なお、選出期限は9月15日となっております。

●教職代議員の選出
選挙権は、在職2年以上の教団全牧師(ただし、引退、休職、休養、教団外派遣の者を除く)に与えられます。

選出候補者は、1947(昭和22)年4月2日以降に誕生された、選挙権を有する教職全員となります。ただし職責上の代議員は除きます。

8月半ばに候補者名簿と投票用紙を送付し、郵送で投票します。

選出された教職・信徒代議員は教報紙上にて公表します。

●教団代表の選出
まず予備選挙で、年齢・再選制限対象者を除いた教職代議員の中から得票上位3名を代表候補者に選びます。選挙権は教職代議員選挙に準じ、郵送による投票を11月頃に行います。

選ばれた代表候補者3名は教報紙上にて公表・紹介します。

本選挙は、明年総会時に全代議員による投票で行い、過半数獲得者が次期教団代表となります。

本選挙は、明年総会時に全代議員による投票で行い、過半数獲得者が次期教団代表となります。

本選挙は、明年総会時に全代議員による投票で行い、過半数獲得者が次期教団代表となります。

本選挙は、明年総会時に全代議員による投票で行い、過半数獲得者が次期教団代表となります。

本選挙は、明年総会時に全代議員による投票で行い、過半数獲得者が次期教団代表となります。

本選挙は、明年総会時に全代議員による投票で行い、過半数獲得者が次期教団代表となります。

本選挙は、明年総会時に全代議員による投票で行い、過半数獲得者が次期教団代表となります。

献堂式

山口教会

祈りは答えられた



平瀬 聡樹

「そして、私に恵みを下さった私の神の御手のことと、また、王が私に話したことを、彼らに告げた。そこで彼らは、『さあ、再建に取りかかろう。』と言って、この良い仕事に着手した。」
(ネヘミヤ記2章18節)

過る3月20日、背後のお祈りに支えられ、藤本満代表の司式の下、恵みのうちに献堂式が執り行われました。献堂式の第一の讃美歌、「祈りに祈りて」を讃美しつつ、会堂に響き渡る讃美の声に圧倒されながら、これまでの祈りが走馬燈のように駆け巡り、目頭が熱くなるのを覚えました。
祈りに祈りて 建て上げ終わりし
栄えの神殿を 献ぐる日は来ぬ
嬉し嬉し 祈りは聴かれぬ
振り返りますと、この度の新会堂、駐車場プロジェクトは、30年来の祈りの応答ということになります。山口教会は、一昨年開設30周年を迎えました。開設3年目に旧会堂が与えられ、糸米の地に移ってきましたが、その当初より、駐車場がなく、ふさわしい駐車場が与えられることが祈りの課題となっていました。



13年6月、隣接地の所有者より、土地を譲渡したいとお話があり、臨時総会を開いて購入を決議。しかし、測量や同意書などで思いのほか時間を要し、手続き完了まで8か月かかりました。(1541㎡(467坪))その後、造成計画、建設計画を立案し、教会を考える会や会堂検討委員会を経て、教会総会において決議。会堂建設が開始されました。



話し合いの中で、なかなか意見がまとまらず、また全員が集まって祈り合うこともままならな

い中、「12時の祈り」を始めました。場所は異にしても、12時になると時を聖別して会堂のために祈る。ほんの短いひと時でも、たとえ時間に少し遅れても、このようにして心を合わせて祈ることを始め、教会に一致が与えられて行きました。

実際のプロジェクトにおいて、事がなかなか前に進まないように思えることもありましたが、しかし、業者との話し合いにおいても、また土地取得や建物の建設計画立案においても、神様は不思議なようにふさわしい人を起こしてください、一つひとつ課題を乗り越えさせてくださいました。
2016年10月16日に開所式が持たれ、その週の水曜日、最初の祈り会が新会堂で持たれましたが、それでも、これまでの祈りの結実を思わされ、心が熱くなりました。23日の聖日、聖餐式礼拝をもって



新会堂における礼拝が開始されましたが、一人ひとりの輝いた顔に、祈った者でなければ知ることの出来ない恵みを味わっていただける姿を見ることが出来ました。
献堂式において、第一コリント一〇章1〜4節より「みな雲の下、みな海を通り」と題して、藤本満先生の式辞メッセージが語られました。祈りによって、会堂建設に当たり、祈りは聞かれるのだというこの単純な事実をもう一度、体験することができたことが、山口教会にとって、大きな信仰の収穫になったことを思います。
冒頭の讃美歌2節に、「御神よこの殿 祝いきよめて 御言葉うち出す 皆としたまえ」と歌われていますが、みことばを打ち出し続ける皆として用いられるように、祈りに力のある教会として建て上げられるように祈っています。引き続き覚えてお祈りください。

また、昨年「女性部だより」等でお知らせした、第3回「女性部セミナー」についても、来年度の開催を目指して検討を進めております。「セミナー」は以前実施されたアンケートに寄せられた要望をもとに始められたもので、これまで郡山と鉦路において、姉妹方の自主的な取り組みによる幸いな学びの時がもたれました。今後の準備のためにもお祈りをよろしくお願いたします。

女性部運営委員会から……
女性大会、部会、そしてセミナーも
コーディネーター 寺村真弓
4月3日にお茶の水本部会議室で、全国女性部運営委員会が開かれ、役員・各ブロックの担当者とともに、今年度の活動について協議の時を持ちました。
教育局女性部としての働きは各教区や聖会における女性大会や部会の開催、女性部だより・女性部会報の発行その他、多岐にわたります。今年度は特に、既に開催された静岡教区をはじめ、関東4教区、東北、北海道、沖縄、九州と各地で女性大会が企画され、活発な活動が予定されています。教会の枠を超えて多くの姉妹方と交わり、ともに学ぶ良い機会となりますように、集会の祝福をお祈りください。

国内教会局から

新約の諸教会再訪

初夏の伝道

それぞれの任地に遭わされ、教会を挙げての伝道・教会建設の取り組みが進められている頃でしょうか。自然界でも命の息吹く季節、永遠のいのちを得る方々が多く加えられますようお祈り致します。パウロは伝道



旅行に出かける度にガラテヤの地域を必ず通過してました。ルステラ、デルベ、イコニオムといった町々で地域一帯の諸教会に宛てられた手紙が残されています。教会の内外に戦いが幾重にもあったことを察します。その心痛を彼は「産みの苦しみ」に喩えています。その延長線上にイサク

とイシユマエルの類比があり、前者が御霊によって生まれ、自由を得る存在だとあり、自由を得る存在だと熱く綴ります。その自由は愛をもって互いに仕えるために生かされます。かくして麗しい御霊の美を豊かに結び、機会のあるたびに信仰の家族に善を行う教会の青写真をこの地域の教会は手にしていたのです。(崇)

■中国が韓国人宣教師を数十人規模で追放
各種情報によると、中国が吉林省在住の推定30人から70人もの韓国人宣教師を突如国外追放処分にした。人権活動をしている牧師がAFP通信に語ったところでは、中国当局はビザに問題があるとして宣教師宅に手入れを行い、出国するよう述べたという。ほとんどの宣教師がツォリストビザや留学ビザで入国している。キム・ヒーター牧師は、追放された韓国人の2割は、北朝鮮難民の救援に当たっていたが、40人がすでに送り返されたと言う。中国政府は、追放の理由を明らかにしていないが、キリスト者への規制と韓国政府のミサイル防衛システム「THAAD」配備反対のためと見る人が多い。また、教会の「中国化」が推進される動きの中で、中国政府のキリスト者抑圧が2016年に増加していたことが分かったと、中国の抑圧監視団

体「対華援助協会」が発表。報告によると、中国本土の迫害は15年の1万9426人から16年には4万8100人に増加した。事例としては肉体的、言語的、心理
■キリストが両親と暮らした家？
ナザレで見つかる
聖書を研究する考古学誌「バイブリカル・アーキオロジ」レポート
的なものを合わせて15年より42.6%増の278件だったという。



海外トピックス

「ビュー」によると、英レディング大学のケン・ダーク教授らが率いる調査チームが、イスラエル北部のナザレでイエスが母マリアや父ヨセフとともに暮らした家特定したと発表。調査チームは、04年から10年にかけてナザレの北北西6km付近に位置するナハール・ジッポーリ地区を発掘調査。一世紀に建てられたキリストの家は、丘陵地帯から谷に向かって傾斜するように建てられ、石造りの壁や、内部では穴の開いた調理道具や糸巻き、ユダヤ人が家に飾る石灰岩で作った舟の飾りが見つかった。教授によると、この家は二世紀頃に空き家となり、集落全体が採石場として使われるように。三世紀頃には墓地と教会が建てられたが、ビザンチン帝国時代に装飾用のモザイクタイルで飾られた形跡を見ると、当時の人々も、イエスが両親と暮らした聖なる場所だと認識していたのではないかと推測しているという。(平瀬聡樹)

北関東教区合同バイブルキャンプ
35回のキャンプを重ね

祈りを通し恵みを知る
教会間協力の成果

越谷教会 川村和臣

3月26日(日)〜28日(火)、北関東教区合同バイブルキャンプが行われました。今年で35回目になります。会場は、茨城県のさしま少年自然の家。キリスト教施設ではありませんが、設備も整っており、豊かな自然に囲まれ、費用も格安です。

今回、講師をスタッフの先生方で分担したこともあり、温かい雰囲気の中、充実したキャンプとなりました。参加者61名。幼児から中高生、保護者の方々と、年齢層も幅広いキャンプです。一時期、参加者は減少傾向にありましたが、最近は新たに加わる子どもたちも起こされていく感謝です。

今年のテーマは「祈ってごらんよわかるから」(エレミヤ二九章12、13節)。新年度を迎える子どもたちが祈りを通して、主を体験し、主とともに生きることができるようになると願いつつ準備を積んできました。

初日はキャンプファイヤーを予定していましたが、残念ながら雨

しかし、教師の方々のアイデアで屋内にてキャンドルとともに豊かな時を持つことができました。集会は4回ほどあり、東京フリー・メソジスト教団みずほ台教会(鶴瀬教会の時から参加)の野尻先生ご夫妻と浦和教会の松井元始先生、そしてホーリー宣教師。パワーポイントや視聴覚教材(どれも力作でした!)を用いて、創世記やヨナ書から、私たちを愛しておられる主につながる幸いがわかりやすく、語られました

その他、バーベキュー、野外での遊びや、体育館でスポーツ、プール、工作なども楽しみました。最終日には、子供たち一人ひとりの証しの時もあり、恵みを分かち合うことができ感謝でした。

ここまで継続されているキャンプですが、大切なのはその内容です。今後も協力し合い、なお、良いキャンプを願っています。



献堂式

呉教会

「心を一つに」の新会堂



内山 忠信

「神のなさることは、すべて時にならぬ美しい。」

（伝道者の書三章10節）
昨年は、呉教会の新会堂建築のために、お祈り、ご献金を賜りましたことを御礼申し上げます。

昨年12月に完成し、今年元日より集会を開始しました。

4月3日（月）藤本代表の司式により、献堂式が行われました。

献堂式で、集われた方々の立ち会いの中で、呉教会員は献堂宣言を通し、新会堂を神にお献げし、これからの歩みを表明しました。

藤本代表より、これからも主に在りて一致した教会であるよう、みことばによる励ましを頂きました（1コリント一章10、12、18、19節）。

（新会堂建築の経過）

昨年2016年は、呉教会が生きて65年、旧会堂が献堂されて40年の年でした。旧会堂の修繕の必要に迫られていました。この数年、修繕か新会堂かの話し合いがあり、新会堂を建てるのは困難と話しが進みませんでした。

昨年3月、今の土地が売出されたことをきっかけに、役員会は土地の購入、新会堂建築を決議しま



した。4月17日礼拝後、役員会は新会堂建築を提案しました。その際、確認されたことは、『①献金は、できる範囲で協力し、予約献金はしない。②だれ一人つまずくことがなく、一致して取り組んで行く』の二点でした。この提案後、自分たちが土地を購入し、教会と借地契約との申し出がありました。

5月8日礼拝後、役員会から、予算は、建築費2500万円。諸経費と備品300万円。土地は借地契約とする。資金の見通しは、会堂会計残高300万円。旧

この度の新会堂の献堂は、呉教会66年の営みの結果です。呉教会歴代の牧師（中野貞行・章代師、河村襄・迪子師、碓井秀司・ルツ子師、渡辺勝弘・勝子師、伊藤正泰・順子師、田中英・弘子師）、そして先生方と共に進んだ信徒の祈り

会堂売却600万円。教団からの融資1500万円。不足金が1900万円。が示されました。その後、検討を重ね、6月5日の臨時教会総会で決議しました。8月に工事会社と契約し、9月に工事が認可され、工事が開始されました。土地は50年の定期借地契約を結びました。（返済済1400万円 終了後、購入の予定）旧会堂は、930万円で売却され、全ての必要も満たされました。神の憐れみにより、会堂建築でだれ一人つまずくことなく、教会を去る人はありませんでした。（献堂式を通して）

と犠牲のゆえの今日であることを覚えました。献堂式には、歴代牧師の数人の先生方が集ってください、「時く者と刈る者が喜び」を共にした時でした。代表のメッセージ、一人ひとりの祝辞を通して、これからも「心を一つに」、失われた一人の魂の救いを求め、救霊の情熱を失わずに、福音宣証と教会形成に祈りつつ、励むことを新たにしました。（献堂式を終えて）

続いて、同じ町内で伝道できますことは感謝です。前より3倍の広さとなりました。『レホボター―今や、主は私たちに広い所を与えて、私たちがこの地でふえるように（量質に発展）してください』創世記二六章22節を心に進みます。

献堂式のために、お祈りとご配慮を心から感謝します。主のお報をお祈りしつつ。

青年部運営委員会から……

青年向けの企画 開催時期を検討

コーディネーター 河村 從彦

新年度を迎え、運営委員会を開きました。そこで今後の展望について話し合いました。話し合われた内容は以下の通りです。

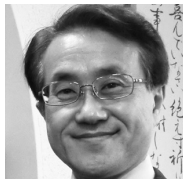
とにキャンは毎年開催します。YSとYSBは隔年でしたが、総会期3年に一度YS全国大会を開催、それを軸に据えて、その間にYSB、各地の青年大会、神学院での青年リトリートなどを展開する案が出ています。その案ですと、2018年、そしてその2年後の東京オリンピックの年、2020年にYS全国大会を行い、それ以降は総会期の3年目に全国大会を企画することになります。

神学院では、体験授業中心の10月のオープン・キャンパス、献身のために祈る12月のリトリートに加え、夏に聖書の学びを中心にした若者向けのリトリートを計画、青年部も協力します。

さらに、現在検討中の組織改革案には、信徒局にあわせて青年局構想が盛り込まれていますが、教会学校、とにキャン、そしてYSからYSB世代まで、一人ひとりを大切にするとトータルなケアができるのではないかとこの点にも期待が寄せられました。

巻頭言

復活の主がともにおられる



世界宣教局
野田 禎

静岡教会の牧師だった松村導男先生の『恩寵の七十年』の中に書かれていることを紹介します。戦前の昭和3年。ホーリネスの東京聖書学院で中田重治監督が当時の院長の時。2年生だった松村



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

松村修養生はトランプと聖書一つで浜田に。屋根裏部屋に宿泊場所を定め、聖書と金森通倫の信仰書を買っては、夕方に路傍伝道の毎日。ところが連続30日もすると疲れ切って、神社の境内にある太い松の木陰の石に力なく座って「主よ、仏教の盛んな浜田の町は、私には無理です。神学生ですから、旗を巻いて帰ります」と祈りました。その時に雷に打たれたかのように「恐れないで語り続け

なさい。この町にわたしの民が多くなるのだから」(使徒一八・10)とのみことばとともに、俄然勇気が与えられて、新しい場所に拠点を変えて伝道に励み始めました。次の礼拝に、求道される方が起こされ、中田兄弟が新生、第一号の受洗者となり、中田兄は務めていた女子師範学校で良き証しをし、学生たちが教会に来られるようになり、信仰に恵まれ14名が洗礼を受けたのでした。夏の実習が終わるとき、中田監督から「松村導男、卒業して浜田教会の牧師に任命する」との手紙があり、そのまま伝道を続けたとあります。翌年、奈良から浜田の女子師範に教師として赴任したクリスチャン、後に松村牧師の奥様になる、さだ子先生も教会に加わりました。先生のクラスの生徒が次々と導かれ救われていったのでした。

私は大学生時代この本を読み、感動しました。伝道は聖霊の力によること、みことばによって神様は励まして下さると教えていただきました。暗く、絶望に思えるようなとき、復活の主は松村導男修養生の隣におられました。そして私たちの隣にもおられます。そして祈りも背後にあったことでしょうか。復活の主が私たちの隣にいてください。そして宣教師の方々、ご家族の隣にいてください。復活の主を仰いで、祈り、みことばに励まされて、神様のすばらしい福音を伝えて行くことはありませんか。

全国教会の先生方と信徒の皆様方に支えられ、1970年から今日まで、海外での働きに従事することができましたことを心から感謝しております。この3月の年會をもって教団派遣の宣教師を引退いたしました。これまでお祈りとサポートをもって、私どもと心一つにして戦ってくださった皆様、私たちが心から感謝申し上げます。1970年10月、教団として初めて派遣する農業技術宣教師として、南インドのベテル農場に始まり、77年から79年まで南インド聖書神学校SIBSでの働き、4年間のアメリカでの学びの後、神様の摂理で方向を変えてボリビアでの働きに移り、今日まで33年間になりました。その間の様々なことを思い返すとき、背後で間断なきお祈りが積み重ねてきたことを感じます。また神様は生きて働いておられ、すべての出来事を決して無駄にはなさらないことも実感しております。



BOLIVIA

ボリビア

三森邦夫・加寿子*2017年4月6日

初めて技術宣教師として送り出され、将来が不透明で悩んだこともありましたが、今振り返ると、今日の技術宣教師の道を開く役割を果たしたこともうなずかされます。インドへの道が閉ざされた故に、ボリビアに教会が生まれ、インドに戻れなかった故に、我が家の居間で信仰をもった兄弟が信仰を公にすることにより、一粒の麦となって、迫害に耐え、その結果、何百倍の実を結んでいくことの故に、御名を崇めております。

引退はしましたが、私たちは生き生きかぎり宣教師として主に仕えたく願っています。ボリビアを正式に離れ、引退することになったのは、主に次の理由があります。まず数年前からボリビア政府は、教会に介入しはじめ、外国の宣教団体あるいは宣教師が教会を始めることができないよう幾つかの厳しい規制を加え始めました。私たちがはじめた働きが、現地の兄弟の手ではじめられたものであるという自立、現地化を一時も早く実行する必要に迫られました。次には、教会が経済的にも、人材的にも大きな成長を見せ、親離れ子離れの時が来たと思っただけです。現在6人の役員と10人のリーダー・トレーニンングに席を置く兄弟妹によって、働き続けられております。宣教師によってはじめられた働きが、聖書的な、ボリビア人によるボリビアの教会に成長・発展することを願っての決定

引退はしましたが、私たちは生き生きかぎり宣教師として主に仕えたく願っています。ボリビアを正式に離れ、引退することになったのは、主に次の理由があります。まず数年前からボリビア政府は、教会に介入しはじめ、外国の宣教団体あるいは宣教師が教会を始めることができないよう幾つかの厳しい規制を加え始めました。私たちがはじめた働きが、現地の兄弟の手ではじめられたものであるという自立、現地化を一時も早く実行する必要に迫られました。次には、教会が経済的にも、人材的にも大きな成長を見せ、親離れ子離れの時が来たと思っただけです。現在6人の役員と10人のリーダー・トレーニンングに席を置く兄弟妹によって、働き続けられております。宣教師によってはじめられた働きが、聖書的な、ボリビア人によるボリビアの教会に成長・発展することを願っての決定



でした。2014年の年末30年ぶりにインドを訪問した時に、神様が、蒔かれた種がどのように成長したかを見せてくださったことから、「成長させてくださる神」にお任せするように導かれたことも、今回の決心を促してくれました。

私たちがボリビアを去ってから6人も働きは続けられています。6人の役員、坂口兄、塔野兄、エゼキエル夫妻、フェルナンド夫妻は、それぞれ元気に励んでいます。リーダー・トレーニングのクラスもレベルIIが順調に進んでいます。エゼキエル夫妻には無事三女が与えられました。コト力集会は、地元から数家族集うようになり、何人かが信仰を持ちました。4月25日、私たちはボランティアとして再度ボリビアに向かいます。数か月の滞在を予定しております。これまでのように、お祈りしていただければ幸いです。■

クリニックは、午前中80人ほどの患者さんです。雨が降ったり、お葬式があったりすると驚くほど人数が減ります。コミュニティの関わり方が現れているのでしよう。葉は、時々手に入らずハラハラする 때가 あります。国が寄付に頼っている状態がほとんどなので、同じものが何度も配られたり、ないものはいつも手に入らないという状態だったりもします。クリニックもない中でやりくりで頑張っています。

宣教師館は、電気工事がなかなか進まない中で新しい方をお願いしました。電気会社の申請やこの構造から反対側の配線が必要に



ZAMBIA

ザンビア

富澤 香*2017年4月4日

ここ2、3年と比べて徐々に山の雨が降った雨季が終わろうとしています。一時は町に出る道路が全面水で川のようになったこともありましたが、最近はその乾いていたところにひどいくぼみができ、右も左もなくひたすら良いところを選んで走ります。

3月上旬に日本からの医学生がザンビアに来られ、ジェンボにも1日トリップで来てくれました。ジェンボの地で初めてゲストを迎えるため、未完成の宣教師館の内装をなんとかゲストを迎えられるように整えました。1日の訪問であつたため時間がなく中でありましたが、クリニックでツアーなどをして働きを見てもらい、田舎ならではのザンビア料理を食してもらい、良い経験ができたこと喜んでいただきました。今月は様々なミーティングや研修がありクリニックのスタッフは出入りが多く、スタッフの数がギリギリの中での働くような日が多くありました。



ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子*2017年4月4日

先日、転んで怪我をしましたが、骨折にならず感謝でした。しばらく立ちあがれずペンも持てない状態でしたが、2日目には字も書けるようになりました。背後にあるお祈りに支えられています。■

そのため、私も出張サービスに出るようになり、ジェンボ周辺の村を知る良い機会となりました。出張サービスには主にモーターバイク1台で2人乗りでいきます。途中、泥にはまってしまうようなこともありましたが、なんとか抜け出して、指定場所に行きサービスが提供でき感謝でした。

3月24日には結核記念日のキャンペーンがあり、クリニック主催の催しモノがありました。結核に関する劇や詩を近隣の中高生が発表したりして、結核の知識・理解を広げていました。ザンビアは以前に比べ大分結核患者は減りましたが、未だに多く、主な死因の一つに挙げられています。このキャンペーンは区役所から3日前に伝えられたことで、クリニックスタッフプログラムを考えたり、学生に劇や出し物をお願いしたり、配給の買い出しをしたりと通常の働きの合間を縫って準備を進めていきました。当日はジェンボ周辺の村長を始め、教会の牧師、子供から大人まで多くの人が集まりました。中旬に新しい助産師を迎えました。以前他の病院で働かれていたベテランの方で、ともに働けることができ大きな助けとなっています。宣教師館の働きとして、現在も電気が繋がれていません。新しい電気技師を検討しています。一度、ジェンボに来てもらい、今後必要なことなどを見てもらいたい。無事に終えることができるようお祈りください。■



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2017年4月7日

台湾では、春を迎えましたが、今年の春先はなかなか天候が安定せず、隔週で気温が急降下する不安定な気象状況となっています。一日の気温差が朝夕と日中で20度を越える時がままあり、体調を崩す方が増えています。教会では、年輩者をはじめ多くの方々が体調を崩され、持病の悪化や合併症などにより、闘病、療養が長期化しています。この6年、礼拝や祈禱会にはほぼ皆勤だった七十代のL兄姉は、風邪を引き込まれ、ウイルスが内臓諸器官に伝染し、違う病気を患われ、介護しておられた奥様も介護疲れから腰痛、持病の悪化により、自宅療養を余儀なくされています。K姉やY兄、S姉、R姉は、国内外の出張やほぼ隔週で入る休日の大学の講義や休日出勤、工場稼働の立会いなど、毎週礼拝を守ることができません。毎週、集会前に入る電話やメールのお休みの届けを受け取り折りつつ、集会出席の足並みが揃いますよう

台湾では、春を迎えましたが、今年の春先はなかなか天候が安定せず、隔週で気温が急降下する不安定な気象状況となっています。一日の気温差が朝夕と日中で20度を越える時がままあり、体調を崩す方が増えています。教会では、年輩者をはじめ多くの方々が体調を崩され、持病の悪化や合併症などにより、闘病、療養が長期化しています。この6年、礼拝や祈禱会にはほぼ皆勤だった七十代のL兄姉は、風邪を引き込まれ、ウイルスが内臓諸器官に伝染し、違う病気を患われ、介護しておられた奥様も介護疲れから腰痛、持病の悪化により、自宅療養を余儀なくされています。K姉やY兄、S姉、R姉は、国内外の出張やほぼ隔週で入る休日の大学の講義や休日出勤、工場稼働の立会いなど、毎週礼拝を守ることができません。毎週、集会前に入る電話やメールのお休みの届けを受け取り折りつつ、集会出席の足並みが揃いますよう

にどのお祈りの課題が常のものとなつていきます。

そのような中、ある日曜日には、数年ぶりの来会者が与えられ、午後の台南日本語集會では、年輩の愛兄弟方が勢揃いで出席して下さり、きょうも変わることなく、主と共に礼拝することのできたという喜びと幸いを覚えました。

集會出席の困難の中にある、療養中の愛兄弟方を訪問し、しばしの交わりと語らい、祈りの中に、背後で教会を覚え、愛兄弟方を覚えて祈っておられることを知り、勇気づけられたり、愛兄弟方の消息を詳細に尋ねられ、そこまで週報を読み抜いておられるのかと驚かされたりしています。少教精銳の中、毎週、毎回の集會に真実に、忠実に励み、黙々と空いた穴を埋めてくださる愛兄弟の姿勢と信仰の成長を感じつつ、育てなされる神様、年頭聖句の「小さな群れよ。恐れるな。」との主の御声の心の中にこだましています。イースターに向かう歩みの中、教会の足並みが揃うように、新しい方々や継続して来会される方が起こさるれ、救われる方が与えられますように、引き続き、お祈りを願います。勝大も入学式を経て、中学生としての学びが開始されます。これまで日本と台湾の学制が違うということは頭にはありましたが、まだまだ我が家では慣れておらず、苦慮しつつ進んでいます。引き続き、子どもたちの学びのために、覚えてお祈りください。■



卒業の月となりました。今月のチャペルのテーマは「召命」でした。毎週、先生方が様々な角度から「召命」について説教をされました。妻が体調を崩したこともあり、常喜は今月2回チャペルで話す機会が与えられました。1回目は「神の宣教への召命」、2回目は「神御自身の心への召命」についてヨナ書から語りました。神はどんな者でも宣教へと召してくださいとされていること、一方で、神は宣教の成功の良し悪しを問わず、むしろその宣教者の心に関心があること。神は宣教者の心を御自身の心と同じであることを望んでおられる。これは、新約の時代において「キリストの心」として表され、その究極が十字架の上のキリストであった。私たちがこの「神の心」「キリストの心」を持つためには十字架に向かわなければならぬ。十字架は私たちの罪のためだけにではなく、私たちの「いのち」、そして私たちが「生きる」ための

ものでもあった(ガラテヤ二章20節)。パウロと同じように私たちがもまた宣教の生涯を生きるために十字架の経験が必要とする。もう一度、宣教と聖化の恵みについて語らせていただきます。

今年の卒業生は神学部19名、宗教育学部9名合計28名でした。ここには、ロザリス聖書大学が政府に認可されたためにその認可された学位を取得するために再入学し、通信教育で終えた卒業生たちも含まれます。フィリピンでは、昨年より義務教育が12年制になりました。そのために、昨年、今年1年生の入学者は激減し、その分、先生方の収入も不安定になっている状態です。周囲の教区、あるいは有志の信徒方々から財的サポートがありますが、それでも十分ではありません。その12年生導入に伴い、学期始めも6月から8月になり(今年はロザリス校だけ)、この夏休み(4か月)は全く収入がない状態となります。どうか各聖書大学の経済的必要性のためにお祈りください。常喜は6月にヴィサヤン校(セブ島)、7月にパラワン校に短期集中講義で出張することとなっています。■

■会計報告3月分

宣教献金 一、二二〇、三九七円
月平均 一、六四三、二七五円

お祈りの課題

◆ポリビア(三森)

◆ポリビアの国と国民のために

◆成長している日福音教会のために。信仰をもった兄弟が成長し実を結ぶ器となれるように
◆私たちの霊肉の健康と新しい働きのため
香港(鹿島)

◆相応しい出会いが与えられた感謝とこれからの交わりのため
◆牧師夫妻の広州・深圳の出入りの安全と働きのため
◆教会員の健康と霊的成長のため
ケニア(鳥田就子)

◆全国的な医師のストライキ終了の感謝
◆WGMリトリートの祝福のため
◆過密状態からの病院スタッフの回復とスタッフを通しての福音の宣証のため
カンボジア(鳥田縁乃)

◆7月に開催される伝道者セミナーのため
◆KCCの各伝道者の働きが救霊と自立教会建設に向けて聖霊の力を与えられ前進できるように
◆KCCの根拠地としての本部と青年のリーダー訓練所となる用地が与えられるように

◆6月9日から7月7日まで一ヶ月間の働きに赴く鳥田のため、健康が支えられ、伝道者の訓練、巡回の旅など、主の御心の働きが進められますように
ザンビア(根廻)

◆宣教師が守られますように
◆宣教師館が完成できるように
ザンビア(富澤)

◆健康と霊の支え
◆車が支えられるように

◆宣教師館の完成のため
フィリピン(豊田)

◆新校長アレックス先生のリーダーシップのために。夏休みに入った学生たちが守られ、新学期(8月)にのぞむことができると

◆ウエスレアン教会の第8回総会が開かれ、新総理としてジャニー・ギリアモ先生、各局長がそれぞれ選出されました。進発したウエスレアン教会のため
◆事故、事件、怪我、災害から家族が守られますように。子どもたちの学びのため。現在手続中の宣教師ビザ取得のため
台湾(平瀬)

◆台中教会、台南日本語集會、出席の足並みが揃いますように
◆新来会者、継続来会者が与えられ、救われる方が起こされますように

◆家族のため。子どもたちの学びと夏期巡回報告への準備のため
◆緊迫する極東アジア情勢の中で、台湾の政治と経済、治安が安定を見るように
東京國際教会(鳥田康毅・由理)

◆東京國際基督教会での奉仕の締め括り、引継ぎ(特に、C.S.日本語グループ、日本語礼拝)が守られるように
◆受洗した兄弟の成長のために

◆8月からの巡回と、その後の奉仕の方向性に主の祝福と導きがあるように。東京國際基督教会での奉仕が祝福の中で締め括られるように(6月末)

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

霊的でありたい

院長 ● 河村 從彦

「彼らは預言する」

(使徒二・18)

「青年は幻を見」(17節)。良い響きだと思えます。ところが、実際にどうなることを意味するかを考えると、熱くなることなのかどうもピンときません。ところで、ある方がこういう訳をつけておられました。「若者らは理想をいだき、年寄りたちは夢をえがく」。

聖霊が注がれることと関連して、「霊的」といふ言い方があります。「世の中の」の反対の意味で使われますが、今ひとつ漠然としています。その言い方の中に、他者の

ありようを丁寧を受け止める感性を鈍くさせる、何かきわどいイヤなものがある感じがして、なぜだろうと考えてきました。

あるとき、その後の部分が大切ではないかと思うようになりまして。その方の訳では、「わたしが霊を注ぐのは、下働きの者たち、下働きの女たちであり、かれらが預言をするのである」となっています。霊的とは、自分を上に位置づけてしまわないことです。

実際は簡単ではありません。自分の牧会やクラスは、欠け多き者がやっているので、申し訳ないことが多かったと思います。

自分の力ではどうにもならない、年数を重ねればわかるのでもない、イエスさまと出会ったことから来る何かが必要なのでしょう。

信仰には、現実には縛られない、恵みによる楽観性があります。理想・夢です。しかし、聖霊はイエスさまを表される方なので、「霊的」とは、自分より若い方々、弱い立場にある方々に向かうイエスさまの視座と言いかえることもできます。達観者になることでも、わかった者として人を指導することでも、高いところから預言できることでもない、もしそれが霊的ならば、自分を人の上に位置づけることになりません。若い世代は理想をいだき、年長の世代は夢をえがく恵みの時代は、自分と立場の異なる方々に耳を傾ける時代なのでしょう。それが恵みの世界の理想・夢なのかもしれません。



入学オリエンテーション

神学エッセー

日本の伝道再考 1 他宗教への心構え



野田 禎

私は神学院でキリスト教と諸宗教を担当しています。神学生の皆さんと学びつつ考えたことを、三回に分けて、エッセーの形で書いていきたいと思います。

第一回目は、他宗教の方に対するクリスチャンの心構え。

第二回目は、他宗教の方にみる先行的恩寵。

第三回目は、葬儀とグリーンフケアと宣教について書きます。

この講義では、仏教、天皇、神道、イスラム教、ユタ、仏壇、葬儀、お墓について学び、最近よく聞くようになった日本会議についても触れました。毎回課題図書からレポートを書き、それをクラスで発表し、互いに意見を交換していく形式で講義を進めました。

さて第一回目として他宗教の方に対するクリスチャンの心構えについて書いていきます。

質疑、感想の中で「自分は今まで、仏教、神道に対して対決する態度をとっていたのではないか」というものがありました。皆「な

るほど」とうなずいていました。私たちも、他宗教の方からいきなりキリスト教信仰を全面否定され、折伏されたら、心を閉ざし嫌な思いをしたいと思います。

人が何を大切としているかを先入観無く見るために、いろいろな入門書などを読みました。「パウロと親鸞」(佐古純一郎)もそのなかの一つでした。

仏教の方であるなら、その方の大切にしているものが何かと教えて頂くという思いを持ち、尊敬を持って接することが大切であると思います。人を自分よりも優っていると思うところから、人とのコミュニケーションができ、祈りの中で聖霊に導かれて福音を伝えることができるでしょう。

しかし、どの宗教でもいじと、どの宗教でも行きつくところは同じという、「相対主義」に陥ることのないために、イエス様が自分の罪のために死に、よみがえって下さったという個人的な十字架信仰、復活信仰が必要です。それがありませんと、私たちの信仰は空しく、イエス様が復活したと言っている私たちは偽り者になります。この講義をしているときに、京都の龍谷大学の、あるクリスチャンの先生から宗教調査の依頼を頂き、クラスで先生とのやりとりを紹介しました。「相手の宗教を尊敬する、だけでは済まないことがある」という事が書かれてあり、そのことについても、良きディスカッションをしました。

◆神学院に入学を許されて

数え切れない主の恵み

正規コース 峯尾仰生

「すべての事について、感謝しなさい。」(1テサロニケ五・18)

この度、聖宣神学院に入学が許された背後には数え切れない神様からのめぐみがありました。その中から3つ紹介させて頂きます。

1つ目は26年間、私の信仰の土台を形成してくださった、別府教会と大分伝道所、中津伝道所の存在です。毎週のメッセージを通して神様と共に歩むことの喜びを感じ、信徒の方々の暖かいお交わりを通して神様の愛を実感することができました。その影響もあり、成長するにつれて、「もし神様が召して下さるならお従いします」という思いが自然と心の中に生じ始めました。そこで、主任牧師の徳田文彦先生と何度もお話ししながら、優先順位を一つひとつ整理して頂き、召命の指標が満たされるように祈り、待ち望んでいました。不思議と、神様はベストなタイミングでこの指標を満たして下さいました。

2つ目は両親の存在です。両親は毎週語られるメッセージを實際生活でどのように適用していけば

良いのかを具体的に楽しく示し、程良い距離感を保ちながら、自分で考えて行動することの重要性を教えてくれました。このことから、思春期の様々な事柄を通して体験的に神様を知ることができました。

3つ目は教団創立70周年記念全国青年大会の青年企画委員に選んで頂いたことです。大会運営に携われた貴重な経験だけでなく、青年の意見をなるべく取り入れ実現しようとして動いて下さった教団が私にとって身近な存在になりました。この経験が献身について深く考える良い機会にもなりました。振り返って見ると自分で出来た事は何一つなく、ただ神様からのめぐみに感謝するのみです。これからも神様と共に歩んでいきたいと思えます。

●土曜信徒講座を受講して

モデルはイエスさま

船橋教会 酒井美子

昨年12月から今年2月まで、月1回、計3回の信徒土曜講座が「キリスト教カウンセリング・初級」という内容で、河村從彦先生によって開かれました。テキストはなく、毎回、各テーマに沿って先生がまとめてくださった講義ノートを基に進められました。どの回

も一人ひとり指名して意見を聴くのではなく、自発的な発言を自然と促し、途中で開かれる聖書の読み合わせも、誰彼となく読み始めるといふ雰囲気の中、自由な発想でのディスカッションが行われました。

心理学と信仰という観点を様々な角度、切り口から捉え、イエスさまが示された奉仕のあり方はどのようなものか、心理学的知見を援用しながら共に考えました。また、聖書の視点を大切にしたい「たましいへの配慮」はどうあるべきかを考え、最終的にはキリスト教カウンセリングの目標まで導いていただきました。

講座を通して一番心に留まりましたことは、「無力」というキーワードです。相談する側は人に答えを求め、相談される側も何か答えなければと思いがちですが、「お



新入生3名 入学式後の愛餐会で

手上げ状態」の問題に対して本当にできることは、ただ横に居させていただくことだけということですね。そして、それは神様との関係に於て、全的に無条件で受容して下さっているイエスさまの姿にも見られるということを学ばせていただきました。また、自己洞察がいかに大切で、このことが信仰の深化と関係があるということも教えていただきました。

この講座は内容が濃く、とても学びきれぬものではありませんが、講座の目的でもある、自分の信仰と奉仕のあり方を振り返る良き時となりましたことを、心より感謝しています。

●土曜信徒講座を受講して

イエス様の涙への想い

中目黒教会 赤石桂子

「あなた方は、炎の中から取り出された燃えさしのようにであつた。」(アモス四・11)

このような者を常にお養い下さる主の憐れみと、恵みに、また信徒講座学びの機会を心より感謝いたします。

春学期講座「神さまってどういうお方?」では、『キリスト者は自己洞察を深めながら自分なりのスタンスを描いていくことも大

切」と。このことを意味深く受け止め、神様と私という個人へのお扱いと恵みの経験を、信仰生活を健全にバランスを保つために、ご聖霊のお導きを祈りつつ再吟味整理させていただいた恵みの時間でした。

秋学期講座「キリスト教カウンセリング」は、私自身の過去へのカウンセリングをイエス様が一緒に巡って下さるような素晴らしい時間となりました。また、現在、心痛む方、暗闇の中にいる方、隣人、他者への心の想いに寄り添う想いとは? イエス様はどのように語っているのでしょうか?と。

ヨハネ一章35節において、イエス様は、罪ある者として存在する人間のために、悲しみにある人々の深遠な心の奥底に至るまで、ご自分を添わせて下さり、人間として動揺を感じ、涙を流されるといふ姿で現して下さいました。また、ゲッセマネの園にては、血の汗を流され、祈られている人間としてのイエス様の想いの傍らに、今度は、主自身によって、「すると、御使いが天からイエスに現れてイエスを力づけた」(ルカ二・43)。御使いが、何も語らず寄り添われました。言葉は一切なく、深い想いをご聖霊によって、心の奥底に語りかけていただくという究極のスピリチュアルケアであると教えていただきました。言葉に言い表わせない深いご愛にひれ伏します。ご多忙極まりない先生方のご労に感謝申し上げます。

私の神学生時代 宣教師としてのイメージ形成 11期生●平位全一



「私ではなく、私にある神の恵みです。」(1コリント一五・10)

*

▼その一 「神の臨在の修行」

入試・筆記試験の折り、試験官が一通りの説明が終わると部屋を出てゆかれましました。その時「あ、

今までの世(試験官が目光らせている大学入試)と異なつて、ここは神を意識して、神の御前に生きる世界だ」ということを実感しました。臨在の修行が始まったのです。創世記一七・2

▼その二 「祈りの訓練」

最も印象に残っているのが、月曜夜の院長指導による、時間制限なしの合同祈禱会でした。伝道者生涯のすべてが、祈りに掛かっているとのことを教えられた場でした。ずっと後、自らが院長としての任命を頂いたとき、神学院教会主任牧師、国外宣教局長という三重の務めにありながら、合同祈禱会だけとは思ひ、それを死守したのは、自らの神学院の思い出があったからでした。ピリピ四・6

▼その三 「宣教師としてのイメージの形成」

クラスでの学びは、それほど難しいものではありませんでした。それでよく図書室から借りた宣教師の伝記を読み漁り、偏ったものでしたが、心に宣教師のイメージを形成していったことを覚えていいます。後にもう一つのイメージの変化を経験しました。使徒一三・2,4

▼その四 「多くの同労者」

私が入学した時代は、神学生の人数が多かった時代で、三年間生活と共にし、将来の貴重な同労者を多く与えられたことは、大変すばらしいことでした。ローマ一二・5

▼その五 「救霊の情熱」

出身教会では、ある夏、一か月連続での特別伝道集會が持たれ、主任牧師が20数回の説教を全部ご自分でなさいました。私は青年会のメンバーとして、路傍案内、個人伝道などに携わり、伝道・救霊に掛ける思いの基礎はあったのですが、それに磨きがかけられたのは、神学院時代でした。一週間おきの外出週は、第一学年の時には、家庭を訪れ、両親家族に逢うことに用いられていましたが、第三学年にもなると、出席していた丸の内教会での担当が、大学生グループでしたので、そのグループの求道者訪問へと切り替わってゆきました。ローマ一・14

この訓練なしには私の伝道者・宣教師としての生活はあり得なかったことと思います。まさに基礎を築かれた時代でした。

同窓生の近況

39期生

神学院教会●小川宣嗣



神学院を卒業してから鹿児島での開拓伝道を5年間経験、その後、母教会の船橋で副牧師を2年、その後の転任で聖宣神学院と神学院教会に遣わされ、男子寮監・副牧師兼任の立場で8年間奉仕、さらに神学院と教会の分離に伴い、教会の責任に与るようになって以来12年目を迎えます。本当に早いもので、いつの間にかBTC卒業後27年目です。3人の子どもたちも一番下が今年20歳。それぞれ元気に生活していることは感謝です。教会は、大きな変化を通過し、戸惑いと模索の時期を経ましたが、信徒諸兄弟の意識と自覚が高められ、地域への浸透を願うての自発的な活動が軌道に乗りつつあることの故に御名を崇めます。

「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです」(ヨハネ二五・16)のみことばに降参し踏み出した献身の生涯。この後も弱さと足りなさを自覚しつつも、御声を掛けられた方が責任を持つてくださると信じて歩み続けたく願います。

神学院スタッフ…恵みの想起

新年度を迎えて

図書館 小林 佳

新年度に入り神学院でも授業が始まりました。神学生が課題図書一覧を図書室にもってきてくださいますが、その中で最近思うことが2つあります。1つは、ほんの数年前に出たばかりの良書が絶版になっていることが多いという現状です。アマゾンなどで見ると、中古取引価格が本来価格の数倍になっているものもあります。

そしてもう1つは、実践神学(説教・牧会学・礼拝学など)に関する書籍が多く出版されていることです。特に礼拝学に関する書籍は近年多く出版されるようになり、多くの牧師たちが興味を持っているようです。

そのような中で図書館も図書を選別しながら、より神学生の皆さんの役に立つ本を準備できればと願っています。

学苑だより



●一九四九年創立の神学院、68回目の創立記念日を迎える月です。ここまでの恵みを感謝致します。

●14日・28日の3回の聖日には創立記念日特別教会実習を実施します。

●後援会から、記念すべき「後援会たより」創刊号が発行されました。礼拝ご出席の皆さま全員にお配りします。

●「後援会たより」は企画担当委員の方々のあつい協議と祈りによるもので、今後は、世話人のご紹介など、誌面構成もさらに工夫されるようです。次号は秋に発行予定です。ご期待ください。

●後援会からお願い 世話人はすでに約半数の教会からご協力をいただいておりますが、まだの教会は信徒のどなたかお一人をご推薦いただきたくよろしくお願い致します。

●神学院祈り会は9日(火)です。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。3月の会計報告をさせていただきます。

3月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による
「神学院サポート献金」
¥568,950
教会団体による「神学院献金」
¥414,635
合計¥983,585

その他の献金(一時・特別)
¥257,300

・振替：00230-0-10138

公報

本部通達

「イサクはその地に種を蒔き、その年に百倍の収穫を見た。主が彼を祝福してくださったのである。」(創世記二六・12)

新年度を迎えて一か月が経過しました。新しい牧師を迎えた教会、新しい環境や状況に移られた先生方をお祈りに覚えましょう。春の時期は、多くの教会で特別な集會等が企画される時期ですが、一つひとつの営みが祝され、良き福音の種まきがなされるように、互いの祝福を祈り求めましょう。

■本部

(会議)

9日(火) 女性牧師ホーム委員会
15日(月) 16日(火)
教団運営委員会(人事委員会)

30日(火) 人権委員会
事務局

教職按手礼試験の希望者は、6月末までに事務局へ申請書の提出をお願いします。ご相談は各地域担当ブロック・アドバイザーまで。

■国内教会局

(会議)

15日(月) 国内教会局運営委員会
(教区会)

9日(火) 10日(水) 北海道教区
(献堂式)

4日(木) 富山教会
世界宣教局

(会議)

30日(火) 世界宣教局運営委員会・局員会

▽今年の巡回報告予定は、台湾の平瀬義樹・光世宣教師が7月16日から8月半ばまで(平日の祈祷会の招聘も可)、ザンビアの富澤香宣教師が9月後半から来年の年會まで、東京国際基督教会での奉仕を終える葛田康毅・由理宣教師は、8月から年會までとなります。巡回を希望される教会は、神栖教会葛田敬子師まで、ご連絡ください。

▽フィリピン、ウエスレアン教会では4月に教団總會があり、12年間教団総理を務められたバタクシル氏の後任として、ジャーニー・ギリアモ師が新代表に選ばれました。

《IWF関係》

▽5月9日(火) にIWF理事会が開かれます。そのためにウエスレアン宣教局、アジア担当のカリガ師が来日の予定です。

▽5月28日にCOG川崎教会で行われる関東聖化協力会主催の青年大会でザック・マツ宣教師が説教の奉仕をします。

(会議)

9日(火) IWF理事会
教育局

(会議)

8日(月) 教育局運営委員会
9日(火) 全国壮年部運営委員会

23日(火) 教会学校部部会
(JEA関係)

(女性委員会主催)
「心のオアシストリート」
日程 6月26日(月) 28日(水)

会場 馬ホロバ・マインズ三浦
講師 神津喜代子師(PBA理事長)

テーマ 「聖書の女性たち…そのぬくもりと優しさに寄り添って」
申込締切 5月20日(土)
申込方法等、詳しくは参加申込書もしくはJEA女性委員会HPを。
(JEA関係)

▽第21回栃木聖化大会
日時 5月21日(日)
講師 河村從彦師
▽第72回ジョン・ウエスレーに学ぶ会(大阪)
日時 5月23日(火)
講師 錦織寛師
▽第10回国聖化大会
日時 5月28日(日)
講師 工藤弘雄師

▽聖宣神学院

▽新入生紹介
峯尾仰生兄(イムマヌエル別府教会出身、正規コース)
齋藤純雄兄(イムマヌエル深川教会出身、聴講) 2016年秋合格

竹内俊之兄(イムマヌエル高津教会出身、正規コース) 2016年秋合格

▽前期の教会実習 受け入れ教会に感謝致します。
伊藤安司兄 深川教会

竹内俊之兄 高津教会
峯尾仰生兄 船橋教会

金成星美姉 東京FM桜ヶ丘教会
大谷のぞみ姉 大宮教会
高木暁子姉 聖宣神学院教会

▽神学院祈り会
5月9日(火) 午後6時・本部会議室、奨励は田中進先生
▽17日は68回目の聖宣神学院創立記念日。各教会で創立記念日感謝献金のご協力をお願いします。
14日、21日、28日に創立記念日特別教会実習を実施します。

▽18日(木) 春の教師会(正午から、聖宣神学院)
▽後援会関係
「後援会たより」創刊号発刊
各教会の「世話人」推薦にご協力をお願い致します。

▽信徒土曜講座開講

【春学期】
●主に喜ばれる結婚とは(内山勝先生) 5月27日開講、4回分を2日を受講。この講座を受講するとカナ・フェロシップ参加費が割引になります。

●文化がわかると見えてくる?(河村從彦先生) 6月24日開講 6回コース

【秋学期】
●信徒として教会に仕える(田中進先生) 10月28日開講 4回コース

●続・聖書読解法(河村從彦先生) 12月2日開講 4回コース
お申込みは各教会を通して、教会締切は5月7日です。

■出版事業部

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇〇CCビル イムマヌエル綜合伝道団本部

(会議)

12日(金) 出版事業部常勤部会
出版に関する要望がありましたら、文書にてお寄せください。部会にて、検討させていただきます。

▽『聖書新改訳2017』のパンフレットがいのちのことは社から教会に送付されます。そこに早期予約割引特価の案内が記されていますが、教団内の教会には、出版事業部より別途特価のお知らせをします。ご検討の上、教会を通してご注文ください。

消息報告



▼任命表訂正

・新浜教会の竿代宅・電話番号 誤 047(407)0050 正 047(407)0500
・金沢泉教会の担任牧師として高桑春子師(兼任)を加えます。

▼立川教会(熊谷邦夫師)の牧師館の住所と電話番号は左記に変更となります。
〒190-0003 立川市栄町2-39-17
電話 042(537)9265 (FAX共用)

▼船橋教会(林正弘師)の献堂式が4月29日に藤本代表の司式により執り行われました。5月4日には富山教会(高桑信雄師)の献堂式が内山国内教会局長の司式により執り行われます。

教報PDFパスワード 3175

新生宣教団 定価 一部〇〇円(税込) 郵便振替 001107133609